

背景

- 子育て家庭をサポートするために、官民間わず様々な支援が提供されているが、縦割り構造等に起因する支援の切れ目が存在している。
- 未就学児を主な対象とした、サークル活動や子育て支援センター、子育てひろばなどの場はあるが、一元化された情報の発信ができていない。
- 第1子妊娠時以降、子育て経験のない保護者にとって情報不足による支援制度への理解不足が生じている。
- 子育て情報を発信する「おうめ子育てねっと」を開設しているが、関係各課との連携による情報集約に課題。

位置付け

- 第6次青梅市総合長期計画(平成28年改訂)
第3章 次代を担う子どもをみんなで育むまち
1 子育て支援
「子育て世代が、安心して出産・子育てができる環境づくりを進め、妊娠・出産・子育てなど、それぞれの場面に応じた切れ目ない支援を展開します。」
- 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年策定)
基本目標1
子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現
政策パッケージ1 おうめ版ネウボラ事業
「妊娠期から就学前までの切れ目ない支援制度であるフィンランドの「ネウボラ」の特長を捉え、官民が連携した切れ目ないサポートを展開します。」

事業展開

- 子育て世代のニーズに合わせ、子どものライフステージに応じた支援を適切に提供できるよう、情報発信のあり方を見直し、制度の切れ目を紡ぐための端緒とする。
⇒ 「子育て支援ガイド」や「おうめ子育てねっと」などの既存情報提供ツールについて、関係各課の連携より子育て世代や子ども向け情報を集約化、一元化することで必要な情報のワンストップ化を図る。
さらに地域で活動する子育てサークル等の活動情報を取り込み、オール青梅での子育て支援情報を発信。
- 支援を提供する側の横のつながりを強化し、適切な支援への誘導を図るなど、多様な主体が連携しあい、育児支援の輪によるセーフティネットを構築。

情報のワンストップ化

